

令和 4 年度 稲沢市地域自立支援協議会 第 4 回就労支援部会 議事要旨

[日 時] 令和 5 年 1 月 17 日 (火) 午後 2 時～午後 3 時 20 分

[場 所] 稲沢市役所 第 1 分庁舎 2 階 第 3 会議室

[出席者] 就労支援部会委員 7 人、事務局 3 人

[欠席者] 就労支援部会委員 1 人

あいさつ (部会長)

[議 事]

1 協議事項

(1) 企業のための見学会について(アンケート報告)

事務局 第 1 回、第 2 回の結果について報告

部会長 3 年ぶりのリアル開催だったがどうでしょうか。

委員 A 赴任して 4 年目になるが、最初の年には前任者が担当していた。当時は学校見学会もしていてかなり企業が参加していた。今回はあまり企業に参加していただけていないので周知方法を工夫しないといけないかと思う。自分も実習先で案内しているが、チラシが入っていたね、といわれたが参加に至らなかった。やはり実際に働いている企業を見ていただくことは良いことだと思う。もう少し他にも見学先を増やすのも良い。2 社とも製造業なので物流業とかも良い。

委員 B すごく良い企画でした。1 回目も 2 回目も時間やスタッフも時間を割いていただいて丁寧な説明をしていただけた。経営者から直に取り組みを聞ける機会はない。そんな取り組みをしていただける稲沢市の企業はすごい。学習会がない日にも参加したが、委員の方がいなくても会社の方だけで回しているところが見られて、本当に、見学先の企業の協力がすごいと感じた。そこで生まれる企業同士の交流が効果的で、企画する際にコンセプトを明確にすることで、企画ももっと良くなると思った。どうすると良いか、と聞かれて企業同士の交流をと伝えたら、そこを視点に進めていただき臨機応変に対応してくださった。企業の説明をパワポでし、その後も直接企業に話を聞いて、ということもあったし、実際に見学の時もざっくばらんに話しかけていただき、同業者ならではの話や雑談もあり交流を深める機会となった。少人数だからかもしれないが、まさしく交流会ができた。せっかくなので交流の機会になると良い。周知について、たまたま秋の一宮市の部会のセミナーと重なったこともあるので同じ時期にチラシ配布し、一宮はズームで気軽に参加できることもありパネルディスカッションがあり対談があった。後半は企業同士の交流会をするという 2 段階だった。自分が聞きたいことも聞ける企画だったので同じ時期の不利さもあったのでは。アンケートについて一宮市では企業の取り組みを見たいということがあり、ニーズはある。実際に行くとなると来ないのは今の時代かと思った。初めにシンポやズームをやってから、更に見たいという企業にこれを

提案するということをしないと難しいのかな。オンラインが当たり前になったからかと思った。よい企画だが秋にチラシを配布して 11 月から 1 月になると意識が薄くなる。その都度の広報をすることも一つ。ニーズはあるが周知できていないのが課題かなと思う。

部会長 どうやって周知を、という所がいつも反省点。参加者はゼロでないので価値はあると思っているが、今回はいつでも行けるようにということで期間を設けて画期的で企業にとって良い企画だと思ったが、思いが伝わらなかった。見学して良かったと、アンケートには書いているが、次に雇用につながるかということとそこにまたハードルがあり、就労支援は難しいと感じた。一宮の企画と稲沢の企画を合わせるものがあつたら良い。コラボして段階的にやれると良い、今後の課題。

委員 C 今言われたように違う職種の企業が見られると参加企業も変わるかなと思う。

委員 D 自分も普段、会社訪問して雇用に取り組むよう話しているが、他社の取り組みはどの企業も参考にしたいニーズはある。そう思ってチラシを渡したが、参加に結びつかなかった。力不足を感じている。企画は実際に見ることはなかなかないので、来年どのような方向かわからないが、継続することで理解が深まると感じている。

委員 E コロナ前の見学会に参加したが、参加者は 20 人以上いたと思う。今年は雇用促進キャンペーンも 3 年ぶりにして周知啓発したが、今年はコロナもあり、大人数がむずかしいとなったりして苦戦した、期間も空いたりするとリセットされるので何回かやることで認知されていく。意外と市外の企業が興味を持ち稲沢市に見学に来たということは以前もあつたので、市外向けにも PR してはどうかと思う。

委員 F 正直答えはわからない。以前も話したが企業は人手不足で悩んでいるのは実際そうであるが雇用につながらない。果たしてどうなのかと思うとやはり勝手なハードルの高さがあるのではないか。豊川市の職業能力開発校は、以前も資料を配布していただいたが、企業も委託金があり気軽にお試しができるということを周知して、ハードルを下げ興味を持っていただけた所にアプローチしていく。チラシだけ配付しても、うちではちょっと、と勝手に判断しているところがあるのではないか。実際見てみると、なんだと思う。人手が足りない中で参加が少なかったのは残念。

部会長 今の意見をもとに次年度考えていきたい。やらなければ何もない。部会あつての企画を考えていきたい。第 3 回目の見学会が来週あるので、また製造業だが、作っているものも違うし、言った事がないかたは行ってほしい。

事務局 企業見学会参加企業へのアンケート結果について報告。

委員 B 最後の企業は合同面接会も積極的に参加している。支援者と繋がっている。見学して実習もしているが、コロナ禍で実習が中止になっている間に対象者の気持ちが変わってしまったりして一時期たくさん希望があつたが最終的に誰も入社にならなかった。繋がっているが決まっていない状況。顔の見える関係性にはなっている。

部会長 アンケート結果も踏まえていきたい

- 事務局 障害者計画に関するアンケートについて報告
- 部会長 単純集計の段階だがいろいろと興味深い。気づいたことはあるか。回収率が低いということはないか。
- 事務局 前回より少し増えた。ネット回答を今回から開始して全体の 2 割だった。
- 委員 F 単純に数字を見て、部会に参加して 3 年になるが、他の委員とは違い、自分は障害者の顔が浮かばない。どういう障害者の方が回答しているのか、ということが改めて説明を聞いていても見えてないということを感じた。そのため、こういう部会で発言するにあたり、違うことをいっていることが多いのではと感じて反省している。他の委員はなるほど、と数字を見て腑に落ちることが多いかと思うが、自分はそうなのか、と思うだけで何も感じることはできなかった。
- 部会長 生活費について給料や工賃が 4 割、年金が 5 割。ここから見える問題があり、18 歳から 64 歳で就労したい人と、就労したいができないという人、その間にあるのは何かと思う。障害特性はわからないか。何に答えられるようなものをしていけば良いか、アンケート結果も参考にして考えていきたい。
- 委員 B 障害のある方への設問で、最後 5 6 の理解を得ることについて、障害のある方の地域のまちづくりへの参加が多かった。街づくりのためのアンケートであり、国からも地域に根差すということがテーマになる。設問の中で、行政に何を期待しているかという質問があったと思うが。
- 事務局 市民向けアンケートの問 3 5 になる。
- 委員 B この項目を見て感じたのは、サービスありきかなと思い、サービスにない街づくりだとか、そういうものが求められる中で、思っていることが選択肢にないと思った人がいるかなと思った。ちょうど先週の土曜日に、稲沢市の協議会の講演会に参加した。精神障害者支援に特化した方の講師の話で印象深かったのは、どれだけ障害者が地域を知るかということだった。先進地域の B 型事業所も、自分たちを理解してもらおうというより、地域のことを自分たちが教えてもらうことも大事だと思った。共通だと思う。一般就労への移行も大事だが、アンケートからも A 型、B 型の取り組みとして考えていけるかなと思う。稲沢市という括りだけでなく事業所がある地域だとか、講師がいていたのは地域の困りごとに関わっていく。自分たちがどんな障害があるかより、地域の課題に障害者も協力していくこと。そういう視点で働く。地域でやれることをやっていくということも良いと思った。この項目で違和感を覚えたのは、ピアの活動とかがない。講演会でも、特に精神障害は薬や通院で精神の病気を治すのは、ろくな治り方じゃない。話していく中でお互いに共有していくこと。治ることはないのでどうやっていくかが大事といわれていた。ピア活動は広がっているので、福祉サービスでなく当事者同士の事業もやってみるのも一つではないかと思っている。そういう項目を出していくのもこれからの時代は良いと思う。地域生活支援事業にある自発的支援事業を使ったピア活動を、

豊川市がしている。神戸から講師に来ていただきピアの事業をやっていると聞いた。そういう、サービスだけでない、地域でやれることを考えていく時代かなと思っている。ここにピアが入ってもいいかなと思った。

部会長 それぞれお気づきのことがあればまた教えてください。

委員 D 雇用状況について説明する。元データは6月1日時点の報告。報告書の提出が必要な企業は常時労働者が43.5人以上になる。0.5という数字になるのは週の所定労働時間が0.5人とカウントする所があるため。週20時間から30時間未満は0.5人となる。短時間労働者という。30時間以上は1人とカウントする。20時間未満で雇用保険に加入しない方は労働者に含まれない。いわゆる中小企業は報告対象にならない。報告する単位は法人になる。全国展開している企業は本社が所在地になっているところに提出していただく。本社が稲沢市になると報告をいただくが、他県の店舗の状況も報告していただく。他市に本社があると、市内の店舗でも他市に報告される。したがって、市内の状況だけを反映している形ではない。配布している資料は、毎年9月の雇用促進キャンペーンで企業に配布した資料に最新データを入れて出している。昨年末に厚労省から公表があり、全国の実雇用率は2.25で昨年の2.20より雇用率は上がっている。県内も2.19で、前年の2.14から伸びている。一宮市、津島市管内でも雇用率は伸びている。しかし、国の法定雇用率は2.3なのでそこには至っていない。稲沢市管内だけでいうと法定雇用率は上回っている。次に雇用率の推移は、年度ごとで企業数や雇用率達成企業を集計している。平成と令和で比較すると雇用は増えている。対象企業も増えている。法定雇用率達成企業の割合は企業の増加に比べて達成企業の割合は少ないと言える。雇用率も上がっている。次に障害者職業紹介の推移は、10年前との比較だと求職数も就職数も増加し、各企業の雇用数は確実に増えていると言える。

裏面に、稲沢市の対象企業92社について産業分類ごとに情報を記載した。92社のうち製造業が56社で半数以上になる。その次に医療福祉、そのあとは運輸郵便。次に労働者数は一番多いのは卸売り小売業。次に製造、次にサービス業。実雇用率は多いのはサービス業、次いで医療福祉、次に製造業。建設業や金融業保険業、不動産業保険業、教育学習業では未達成割合は100。他と比較して雇用率は低い。次に今回の部会で企業での就労をいかに上げるかという話だったが、令和2年度から中小企業で雇用について優良企業を国が認定する、もにす認定制度が始まった。昨年度までハローワーク一宮管内で1社もなかったが稲沢市の TIY 株式会社を認定した。県内で12社目。現在県内で18社の認定があるが、県内の企業6,781社の中で18社。制度の趣旨は障害者雇用の身近な企業をアピールする認定制度なので、雇用に理解がある企業が増えていけば良いと考えている。雇用が優良な企業の中で認定制度に賛同していただける企業があれば、声をかけてほしい。

部会長 雇用状況一覧を見ると製造業が一番多いが、製造業が、一番仕事が分かりやすいので、できたかできないか分かり易く、働きやすい。雇用が進むようにしたい。未達成企業は業種的に難しいこともあるが、達成のためではなく、仕事を切り出していくということで就労が進んでいくと良い。もにす認定では、障害者と一緒に仕事をするとしているが、最初に雇用を始めたのは人手不足が理由。今悩んでいる企業が障害というだけで二の足を踏んでいるなら、その解消になれば良いと思う。

委員 B 今年、法定雇用率は上がるか。

委員 D 先週、新聞報道が出たが、ちょうど今、厚生労働省の部会で議論している最中。具体的な情報はないが、おそらく今年の4月は時期的に早い。来年4月以降に2.5になり、最終的に2.7%になる、ということは聞いている。

(1) 就労支援事業所連絡会について

事務局 就労支援事業所連絡会（12月19日）について報告。

部会長 部会と連絡会は連携を取っていけると良い。販売活動についても協力できないか。

委員 F 安請け合いはできない。

部会長 社会貢献としてはどうか。

委員 F それが通用するならそこまで大きくなる。

部会長 色々知恵を出し合っていきたい。部会は今年度で終わりですか。

委員 A 部会に参加して、運営会議で福祉から企業へというのが上手くいっていないのでは、という話があった。県域で就労支援機関の連絡調整会議をやり、昨年度は福祉的就労から一般就労へ、という内容で、オンラインで会議を開いて支援者の相談窓口として県から指定された事業所の方に話をしてもらった。今年は就労移行とA型事業所向けに、就労支援のスキルの底上げのために、職業センターの方にお話をしてもらう。福祉的就労から一般就労へ送り出すという意識で支援される場所もあれば、A型で長く働いていく、本人の意思も同じ、というところもある。どちらにも共通するのは本人のニーズを知りニーズに対して支援をしていくこと。そのスキルを底上げすることを目的に話をしてもらう。後半はグループワーク。あくまで福祉的就労でずっと働くこともその人の選択だと思うが、支援が出すぎてはいけないし、なさすぎてはいけない。あくまでその人の人生をどう支えるかという視点で開催する。職業センターの方はわかりやすい言葉で説明してくださる方で、すごく良い機会なのでたくさんの支援者に参加していただきたい。稲沢市でも地域で働いていこうという人に対してそういう取り組みもあって良い。職員の勉強の機会は、A型では難しいようで参加していただくことが難しい。昨年度はオンラインだから出られた。稲沢市から出向くのは難しいこともある。地域でスキルの底上げをすることができると良い。

事務局 稲沢市では連絡会を開催しているのでその時に来ていただいても良い。